

金野康弥

詩集



2004年夏～2005年夏

K

海のあこがれ
もっていて
ぼくの心は
海そのもの
ぼくはもうすぐ
涙を流し
海にむかって
なくだろう
このままぼくは
なくだろう
あなたの大きさに
あなたの深さに
あこがれていた
海の青さに

K

さらさらと
ながれるみず
光をあび
夏のぼくらを
かがやかす
さらさらと
おちる太陽
光をあび
かがやくぼくらを
あつくする
ぼくらは
心の中でさけぶ
生きてるんだ
力のかぎり
生きてるんだ！！



K

ママへ

ぼくのママ

いつも かみのけ きになる

ぼくのママ

いつも くつ下 気になる

ぼくのママ

いつも セーターの色 気になる

ぼくのママ

いつも ジーンズ 気になる

ぼくのママ

いつも 子供の心 気になる

やさしいママです

K

私はいつもなっていた

歩けない、話せない、自分では何もできないと泣いていた
そんな私をおこったのは母でした

しつかりしなさい

あなたにもやらなければならぬことはありません

どんな人でもやらなければならぬことはあるはずで

ぼくも考えた

たくさんいろいろ考えた

そして思った

やれることはなんでもやろう

わらうこと　なくこと　たべること　書くこと

たくさんはないけど

いっしょうけんめい心をこめてやってみよう

人にしてもらったことはかんしゃしよう

いえないけれど心の中でありがとう

心の中で言えたなら

それで自分によく言えたよかったと
自分の成長をよろこぼう
ぼくは一人ぼっちではなくて
いろんな人にささえられ生きている
そのことをわすれずに
元気でいられることにかんしゃして
うれしいことに感じられる
そんな人でいることで
自分は生きるかちみつけたい
ぼくがなぜ生まれ生きていくのか
かならずこたえあるはずだから
いっしょうけんめいさがしていきたい
ぼくをしかった母のためにも

K

そらの青さがまぶしくて

ぼくはおもいきり目をつぶる

きのうの空よりも

青さがこい

すこしずつ

ぼくも大きくなる

氣づかなかつたけれど

ぼくも大きくなる

あのかくものように自然なうごき

かんしゃしよう

今のぼくに

かんしゃしよう

ぼくの春に

K

山にふる

夜 星

やみの中に光る

粉 輝く

ぼくは一人

どちらに行けばいいのか

おしえて 光る星たち

ときどきみえなくなつて

さまよう心

どちらかがやるべき道

神の心

星たちに

心 といかける

明るい道に

ぼくをまねき入れる

粉の星

K

さらさらさら

雪がとけて

しずくたちのあまり水の池

すきとおる

まるであの人の心のよう

池は大きくなり

かすかな音

さらさらさら

まるであの人の心あふれるように

心あふれ流れ

大地にふりそそぐ

大地ははるのめぐみにかんきをあげ

いつきに芽ぶく

まるであの人の心のように

花や木がいつきに成長する

このときをまっていたと言っばかりに

さらさらさら

風がふき

雨がふる

いまかいまかと

まっていたかのように

まるであの人の心のように

きせつは流れる

さらさらさら

千年、二千年と

とき(時間)は流れつづけていく



K

ゆめのこみち

トコトコトコとあるく道

水路のわきをあるきます

トコトコトコと

林の中をあるきます

お母さんもこの道がすきな

ぼくもすきなんだ

いつもいっしょにあるいてくれてありがとう

これからいっしょにあるこうね

お母さん

これからもお母さんをおいしていくよ

ぼくのお母さん

K

大風（たいふう）の前のしずけさも

あとのしずけさも同じように感じたら

それはまちがいです

このごろいろんな風にこころがうばわれていて

この風いいなと思い

ぼくも風にのつてどこかにいきたくありません

この風南行きですか？

ぼくをのせてくださいませんか

この風きれいなゆうやけ色で

とつきゆうです

のりません

ぼくの心風にのりたびをする

うつくしいけしきをうつす

そらにむかい

のせてくれませんかとかえをかける

K

さらさらさら

こんどの道

一人でいくよ

さらさらさら

さみしいな

こわいな ふあんです

一人このままあるく

さみしいな

こわいな ふあんです

でもやらなきや

ぼくおとなになるんだ

さらさらさら

いってきます

まっててね

ぼく一人であるく

心の道



K

葉のさきに光さす

夕ぐれに

ぼくの手におりてくる

葉のさきに光さす

夕日に

ぼくの体をあたためる

かみさまありがとう

ぼくは今生きている

いきるぼくに

かんしゃします

K

さくらさいて

道の上に 花びらがまう

ようせいがひらひらおどる道に

あなたはなぜないていたの

友達の愛なくして 一人ぼっち

でもごらん

君の愛をまっている

君のまわりに愛がある

K

さみしいよ
かなしいよ
ガザガザと
ザーザーと
心がる
時につよく
時に静かに
風と雨
心のそこに
うちなりひびく

K

さらさらさらとゆれる葉に

はなしかける春です

春です

とりのなく庭に

春の風

ゆっくり笑う人々

悲しいじけんも ゆっくりといえていくでしょう

悪いことばかりではないんだ

ほらそこに

幸福とよぶ春がきている

悲しみをけす 春の音

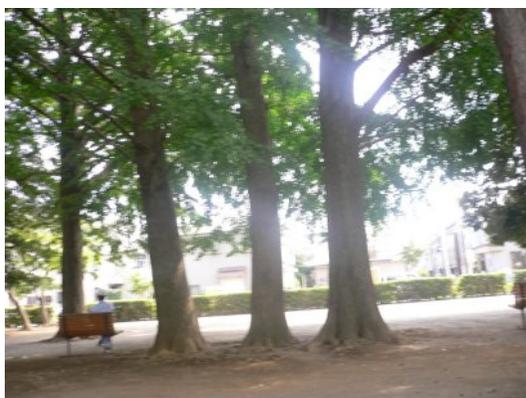
人をはげます とりの声

きいてみて

かならずいえていく

人々の心が

いまぼくはいえた心を ゆっくり見つめている



K

ママごめんね

ぼくママを幸せにしたいと思ってるのに

自分は不幸をせおっけていて

もうこんなおもし不幸はすててしまおう

そして車イスに幸福をのせ

みんなにくばるんだ

もちろんママにとびきりの幸福をあげるよ

みなさん幸福の福袋はいりませんか

たくさん心がつまっていますよ

幸福の福袋いらんかエー

車イスはこれからいそがしい……

K

さくさくさく

よくてもわるくても

さくさくさく

これがぼくで

ぼくはこれ

やるっきゃないよ

自分の人生

やるっきゃないよ

さくさくさく

よくてもわらい

わるけりゃこんなもん

自分の人生

かみしめる

幸せなんて

そう思えばそうで

そうでなければそうでない

満足なんてことあるわけない
あつたらみんなもっている
満足しないから
ちようせんして
前を見て
はしりつづけてる
ぼくの人生
一ちよく線です

K

ぼくは畑にたねをまきました

小さな花です

なんの花かわすれてしまいました

ずいぶん前にひろいました

たしか白い花だったような気がします

一ヶ月前にうえました

土の中からめが出ました

うれしいです

これもいのちなんですね

かけがえのないいのち

かけがえのないいのち

ぼくは見ました

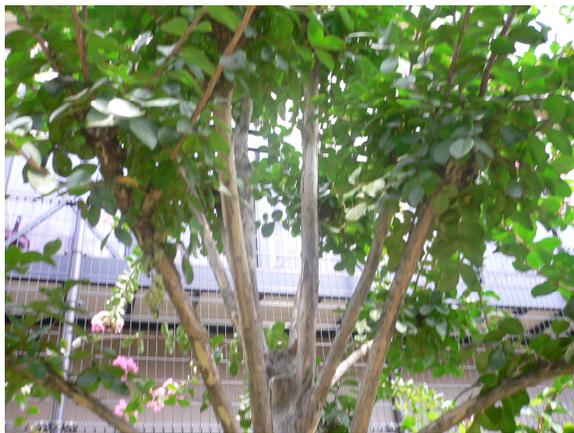
このいのちをかんがえてみれば

ぐうぜんのできごとで

ほんの一しゅんの生の動きに

ぼくたちは会ったのですが

かみさまにかんしゃしなければいけないでしょう
ありがとうございます
ぼくの命と花の命と
どちらも同じ
たいせつです
ぼくもぼくの命を
たいせつに見つめていきたいと思います



K

とうといいのちが　ここで守られ生きています
とてもよわい命だけれど　ひっしで生きています
このことはきつとたくさんある
でも世の中に
みおとされているのではないかと思うから
きつとわすれられてしまうよ
ぼくは感じる
わすれてほしくない　命のとうとさ
なににも変えられない
ぼくは生きるために生きている
こうしてささえられて
ほとんどのことを手伝ってもらって
でもいきるいみはかならずある
ぜつたいにある
きつとある

K

こうやにさくーりんの花は
だれにもみられることなく
その一生をおえても
それは悲しいことでなく
花はいくつもの種を作り
しらない土地へたねをとばす
ーりんの花がしらない土地へ
花はかれてなくなっても
種はとびいくつものめを出す
いくつもの命が生れる
ーつの花がしんでも
あたらしい花がいくつもさきはじめる
生というものは
そうやって生きつづける
えいえんにつづく
なにかあっても生きつづけていくのです

K

月の光をあび

こちよいねむりにつく

ぼんやりとうかんだ光を

ぼくは初めてみた

あれは

とおくとおくに光る月

いやされた体は

まるで自分の心とは反たいに

ゆっくりとうごく

ぼくはまるで赤んぼうのように

ねむりつづける

月の下で

みなさんへ

ぼくの詩集よんでくれてありがとうございます。ぼくはこの前、下田に旅行してきました。下田は、山、山で、ひよいと海になります。とてもびっくりしました。けどぼくはとても氣に入りました。まるで、ぼくのようにです。ぼくの心はいつも山、山、山をやつて、やつと光る心になる。くるしくてくるしくて、でも一すじの光がみれるからがまんすることが出来る。ぼくの心が光るとき、ぼくはもくてきがはたされたと思う。この詩集もそんな心の光です。ぼくの光、これからも強いものに変化させられるようがんばります。

みなさんも光をさがしてみてください。強い光に変えられると思いますよ。

おわり

金野康弥

まず康弥へ

いろんなメッセーヂありがとう。ママは君が大好きで君がいるから泣けて笑えて毎日が楽しくて、幸せだなと思っているよ。だから君にも泣いたり笑ったりおこつたり自由な君でいて欲しい。きずつくことをおそれたりしないで欲しい。

きずついたら一緒に泣こう。そのためにママは君のそばにいるのだから。

柴田先生、外山先生へ

いつもお忙しい中、ご指導いただきありがとうございます。いまの康弥にとって自分を表現できる場として、コンペイトーは正しいな所となりました。又、コンペイトーの先生方のおかげで、学校生活も充実したものになりました。どうぞこれからも長いお付き合いをお願いいたします。

この詩を読んで下さったみな様へ

この文集を手にとって読んで下

さってありがとうございます。一人、手をとって握手したい気持ちでいっぱいです。

平凡な私達に何ができるのかなと思いつながら、なにもできずにいた私達親子に、いろんな人との出会いが切っ掛けでこの文集ができました。そして、見知らぬみな様がこの文集を読んで下さる。私に知らない所で文集をとおしてみな様と出会うという不思議なご縁です。このご縁が、良いご縁になりますように……。

金野英子